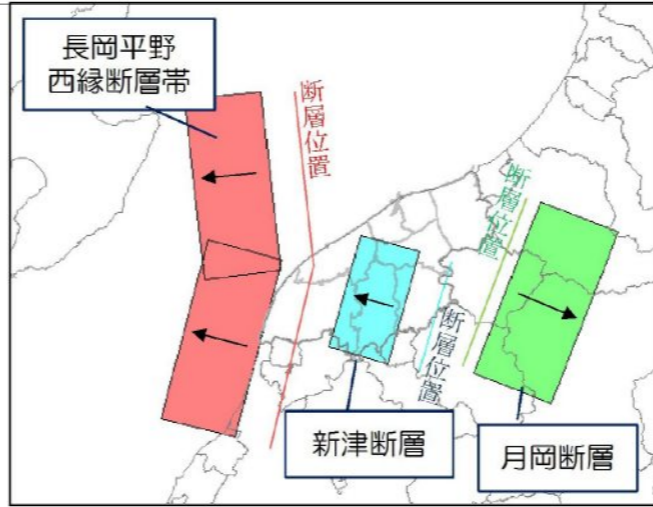


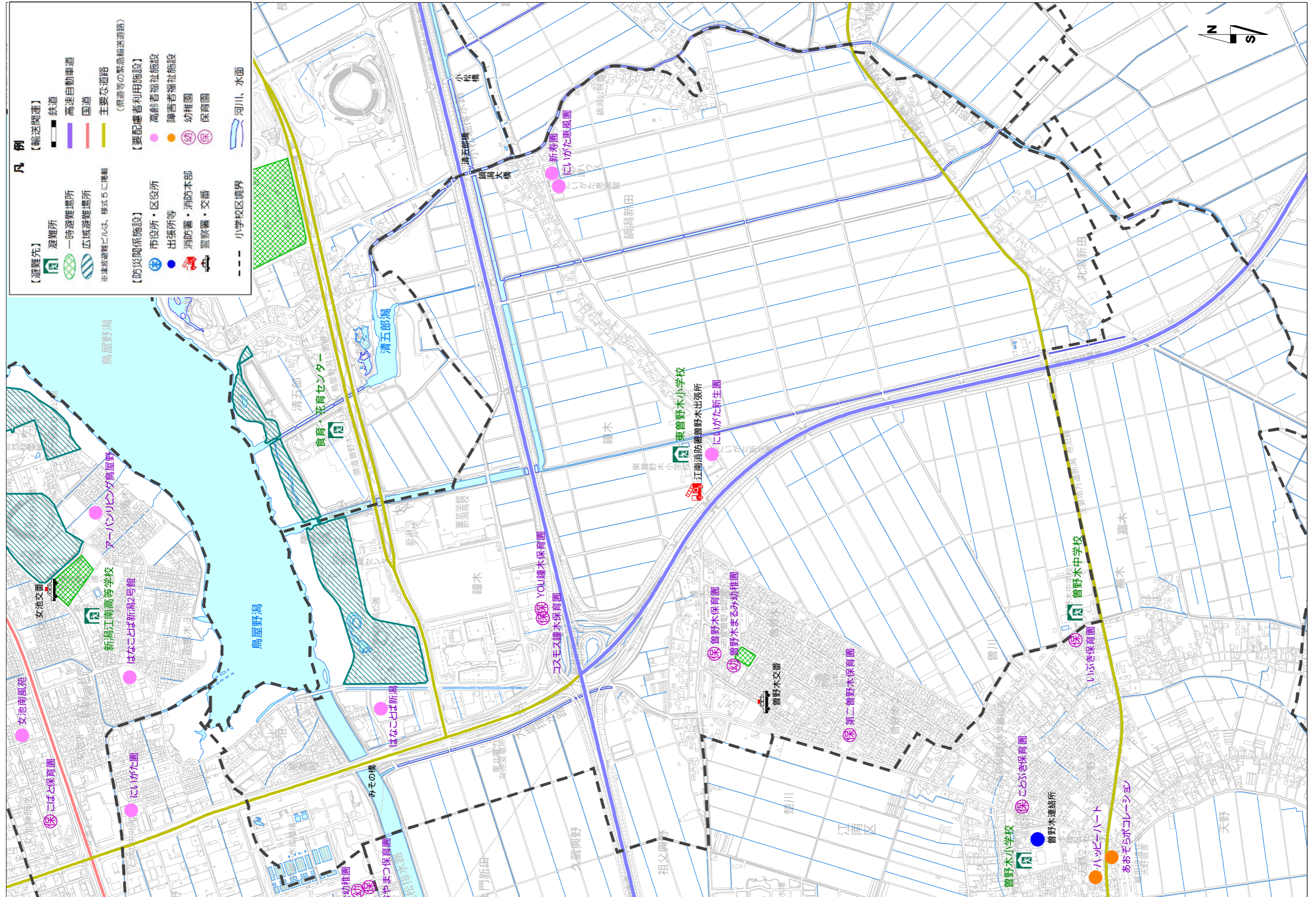
	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。
 【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】
 過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>
 モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

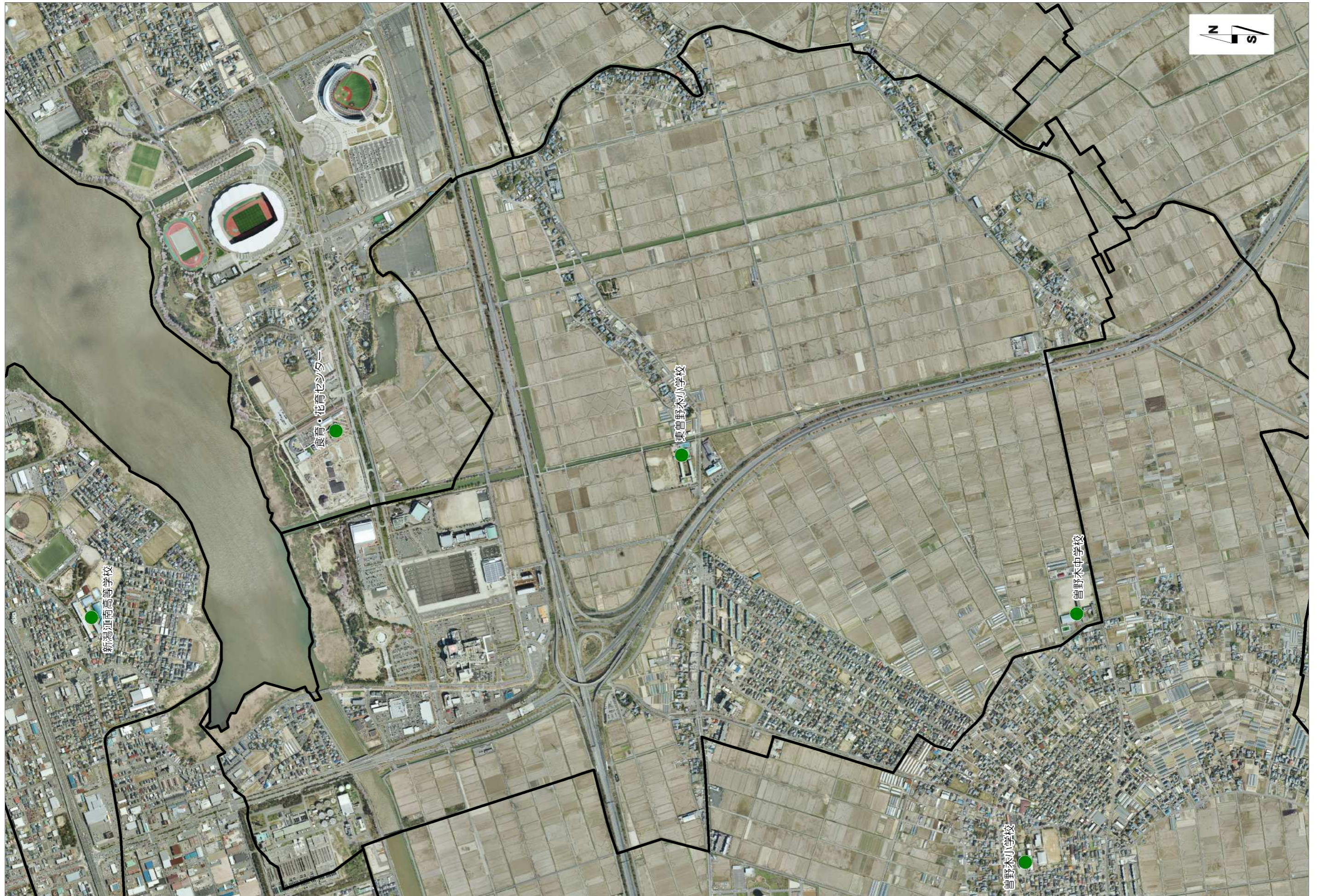


← は、断層の傾きを示しています。



【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

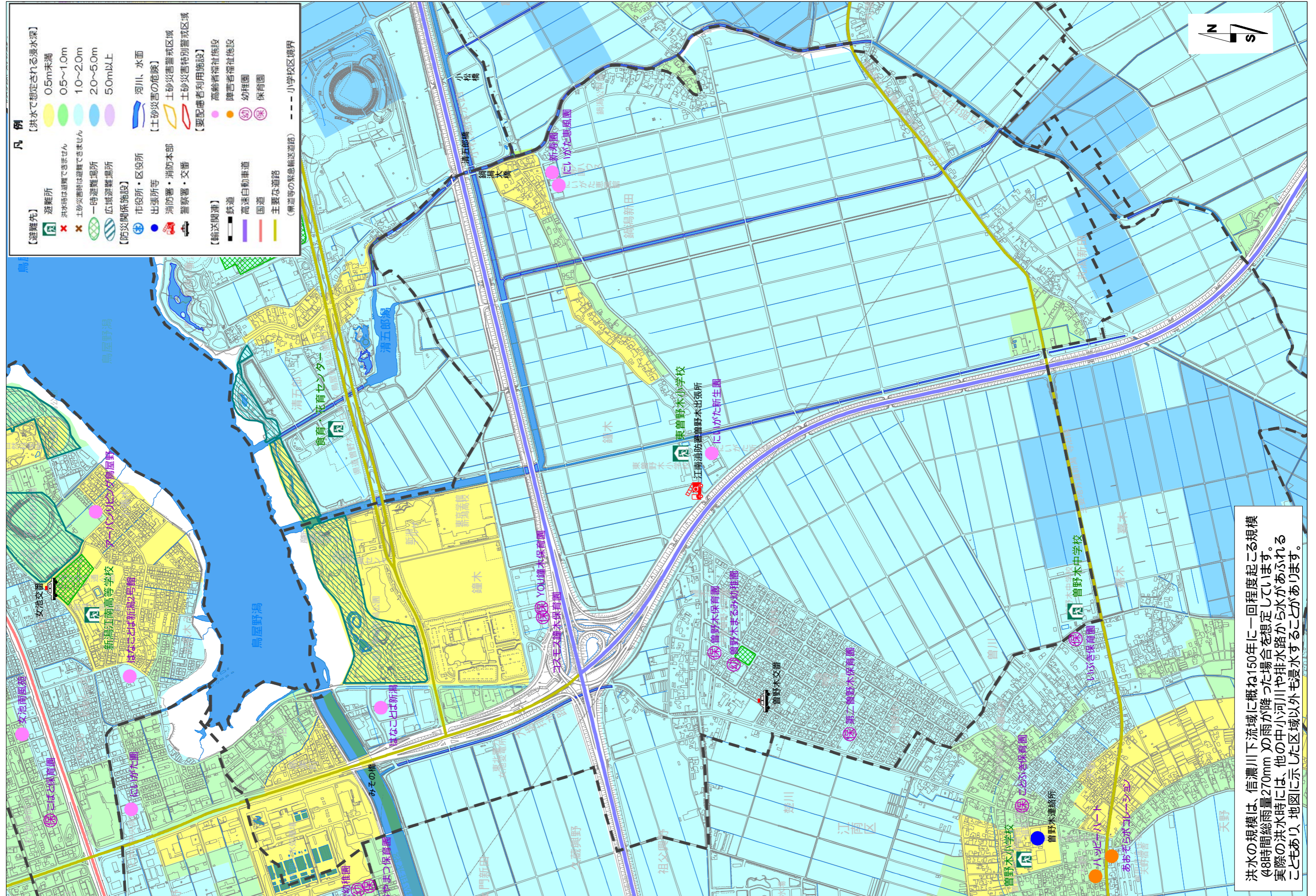






[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

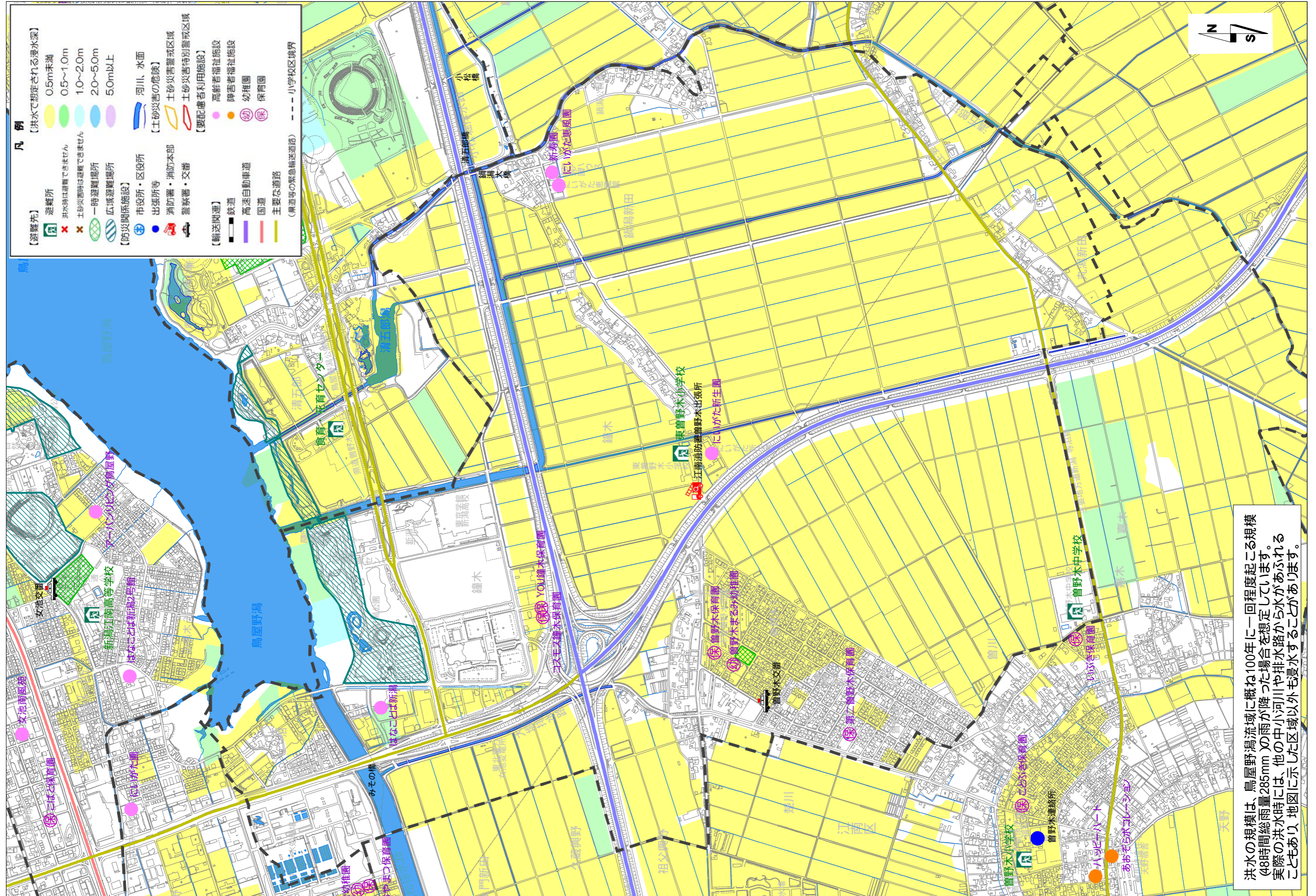




洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)





洪水の規模は、鳥屋野瀉流域に概ね100年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量285mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 栗ノ木川上流・鳥屋野瀉・鳥屋野瀉放水路浸水想定区域 (新潟県, 平成18年8月25日)





[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
 小阿賀野川 能代川浸水想定区域 (新潟県, 平成16年6月23日)

洪水の規模は、小阿賀野川 能代川流域に概ね100年に一回程度起こる規模 Q4時間総雨量324mm の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。